本市の人口	（昭和49年8月1日現在）
人口総数	193，001人
男	94，179人
女	98，822人
世帯数	60，338世帯

甲府市議会だより

（編集・発行）甲府市議会だより編集委員会　電話(35)７０５４甲府市議会事務局
昭和４９年９月１日　第２２号

6月定例会日程

7月12日	開会　提案理由説明
13～14日	議案調査のための休会
15～17日	一般質問
18～19日	各常任委員会
20日	各常任委員長報告 会期延長
21日	正副議長選挙　閉会

補正予算など30件可決

刑務所移転・水源確保で論議

議長 内藤秀治氏・副議長 中西 久氏

6月定例会

六月市議会定例会は、七月十二日に繰り下げて招集され、会期を七月二十日までの九日間と決め、市長から提出された補正予算及び人事案件等三十件をいずれも原案のとおり可決並びに同意することに決しましたが、最終日に役員改選問題で紛糾し、会期を一日延長して正副議長の選挙と常任委員の改選が行われました。議長には投票の結果内藤秀治氏（市民ク）三十四票、込山貴雄氏（社会）四票で内藤氏が、また副議長には指名推選により全員一致をもって中西久氏（新政会）が当選されました。また企業会計決算三件は、決算審査特別委員会を設置し閉会中継続審査に付することとし、乳幼児医療費無料化に関する意見書の提出と甲府地区広域行政事務組合並びに甲府市上積村中学校組合議会の補欠議員の選挙をそれぞれ行い、七月二十一日定例会を閉じました。

一般質問の内容

一般質問は、七月十五日から十七日までの三日間にわたり、三井五郎（共産党）、柏原保幸（清心会）、小沢政春（清風会）、中西久（新政会）、小河原正平（市民ク）、長瀬正左衛門（市民ク）、樋口精一（社会党）、堀込徳一（公明党）の八氏が各党各派を代表し刑務所移転、荒川ダム、丸の内、中央地区の再開発等当面する市政の問題点をとりあげ活発な質問戦を展開しました。その主な内容は次のとおりであります。

▽市長選挙

当面する諸問題解決に努力

問　過般の参議院議員選挙での甲府市の革新三党の得票率は六二・四%で、市民の大半が革新を望んでいるといえる。この関心は知事選、市長選に向けられている。市長は来春の選挙について明確にすべき時期にきていると思うがどうか。

答　就任以来今日までの政治姿勢を今後も続けていく。公約についても九〇%くらい実現することができたが、今は動物園移転の繰延べや刑務所移転問題、それに荒川多目的ダム建設、甲府駅の近代化、中央新幹線問題に全力をあげているので、再選を考えるに至っていない。

▽市庁舎

郵便局跡地買収と水道庁舎

問　市庁舎を現在地に置くという計画のもとに郵便局跡地を購入するのか。また、その時点での水道庁舎はどうするのか。

答　郵便局は、十月頃移転するのでそれを目途に郵政省と話し合いを行っている。現状の狭隘な駐車場に対処するほか市庁舎として使用すべく買収していきたい。

水道局については、南西方面に買収地があるので、できればそちらに移転してもらって跡地を駐車場にしたい。この点水道局もその意向なので、財政担当とよく検討して対処していく。

▽教育行政

PTA経費父母負担の軽減

問　PTAの寄付禁止が議会で決定され、学校格差の是正が検討されているが、本年度は市内の小中学校で、昨年末以来の物価高騰を理由に二十一校のPTA会費が大巾に値上げされている。PTA予算の七〇～九〇%が学校施設費等に向けられているのが実情である。教委はもっと積極的に指導につとめるべきではないか。

答　PTA負担の軽減については、就任以来努力を続けており、今後も議会の意向を踏まえ、できるだけの方途をとり指導してまいりたい。

昭和四十九年度においてはPTA会費の値下げの学校も五校あり今迄の指導が効果をあげていると考える。現在教材教具施設費等の負担率は公費七、PTA三の割合いとなり、特に保健費は全て公費負担となっている。今後計画的に私費分を下げていく。

学校給食費の無償化を

問　義務教育における給食、教材、教具の高騰が続いている。特に学校給食においては、実施以来小学校二十年、中学校は十年を経過している現在、義務教育の一環と理解できる。市長は、学校給食の無償化についてどのように考えているか。

答　学校給食無償化については同感である。しかし、学校給食法によると、食材費については保護者負担の規定がある。このため現行の給食法の改正が必要であるので、法の改正や財政措置への努力をはかっていきたい。

甲府商業高校移築五十年度着工

問　甲府商業高校の移転開校はいつを目標にして作業を進めているか。

答　商業高校の移転地は確保してあるので、五十年度着工、五十二年四月開校を目標にして準備を進めている。

問　商業高校の移転に関連して同窓会館は跡地に建設する計画と聞いていたが、最近になって新築地の方に建ててもよいといっているようだがどうか。

また、財源とする青葉町グラウンド処分に伴って地元からは、避難場所とか小さな運動場が欲しいという陳情があったが、この点の考え方と売却の場合の方法はどうするのか聞きたい。

答　同窓会館については、同窓会から申し入れがあったが、私の方で新地につくるということはしない。これは同窓会がつくることであるからで、青沼の地につくることには賛成するといってある。また、地域住民も青沼の地に建設することを要望している。

商業高校の移築については、跡地と青葉町グラウンドの売却をもって財源とするが、基本計画は教育委員会の煮詰めができ次第立てていく。したがって、売却方法等も検討中である。

▽刑務所問題

移転推進に努力

併行して南部地区開発を

問　甲府市南部の発展は、広域的行政が進められている現在、刑務所を移転することによって推進されるということは必ずしも適当とはいえないのではないか。

すでに、大津町では下水道処理場建設に協力している。

地権者の中にも反対者がおり地元民と十分な話し合いがされているとは考えられない。このような状況のなかで、今回の計画は引っ越す側の立場に比べて、受け入れ側の立場がおろそかにされていたのではないか。地元民の混乱は避けるべきであり、市長はこれに対しどのように考えるかうかがいたい。

答　刑務所移転促進は、私が申し上げるまでもなく、議会の皆さんの意見でもあり、議会の特別委員会とも緊密な連絡をとって対処してきている。刑務所移転は、何といっても地元の人達の理解を得ることが先決であるので話し合いを続けている。反対派にも話し合いの呼びかけをしているが、現段階では応じてくれない。しかし、七〇%の人達が賛成してくれているので移転を推進してい、決意である。私としても地元の混乱がおきないことを願っている。そうしたことのないよう、なお、地元住民の理解と協力を得るよう努力を重ねていく。

大津町に処理場建設の際の協力には感謝しているが、地域の開発を進めるためには大津町が調整区域であり、かつ、第一種農地をかかえている関係もあって、刑務所移転と併行していかなければ地元が希望している市街化としての開発は不可能である。

万葉植物園の保護奨励

問　万葉植物を収集して、その植物に万葉歌をつけた貴重な植物園があるが、これに対する保護奨励策は考えているか。

答　中島先生のつくられた万葉植物園は、植物と歌を残すなどりっぱなものである。県ではよい方法で残したいとしているが、市も一緒になってやっていきたいと考えている。文化財とはいえないので、万葉植物園として残していきたいが、この点は検討したい。各学校に対してはPRをしている。

▽商店街対策

丸中地区開発を積極的に

問　丸中（丸の内・中央）地区商店街の再開発は、魅力ある商店街建設のため積極的に取り組むよう要望する。今後これに続いて朝日、伊勢等他の商店街についても実施する考えがあるか。また商居建築の確認を市で行う考えがあるか聞きたい。

答　丸中地区の開発については技術的指導と援助、さらに協議会に対する補助をするため最大限の努力をしている。総工費は、銀行融資、国県市補助、自己資金等を含めて三三八億円である。他の地区にも発展させていきたい考えはもっているが、それには地元の理解と熱意が必要である。建築確認事務については、建築主事を置かなければならないので、職員の研修を行い五十年度実施を目指して実施すべく検討している。

既存商店街の育成策は

問　最近、大型資本の進出により既存商店は窮地に追込まれているが、商店街育成の具体策を示されたい。また中心街の駐車場対策はどうか。

答　商店街問題は駅近代化、丸中開発を中心に整備していく考えである。また銀座を中心にしたカラー舗装も進めていく。

駐車場対策については丸中開発の中で考えているが、県に中央公園の地下に駐車場を設置してくれるように働きかけを行っている。

一般質問が行なわれた本会議場

▽福祉行政

民生委員推せんの方法は

問　民生委員はこの十一月に満期と聞くが、推せん方法を誤まると福祉行政に汚点を残すことになる。今回はどのような方法を採るのか。

答　今回はまだ厚生省から指示がないが、私はいままでの方法は改めるべきだと思っている。推せん方法については、参事に考え方の集約を命じているが、市議会民生委員会とも相談する中で改善していく。大まかには、民生委員推せん準備会（仮称）を設置して検討してもらい、民生委員推せん会がその結果を参考にして推せんしていきたいと考えている。準備会の構成メンバーには、自治会、PTA、母子相談員、青少年育成協議会、福祉のケースワーカー、市役所連絡所長などを代表としたい考えである。

▽農業行政

農地の宅地化に対する対策

問　最近宅地化により農地は次第に減少している。特に、甲府市における転用は急速に進められており、その周辺地区農家の不安は募るばかりである。

減少する農地の活用については都市化に先んじて、農業後継者の対策と合わせ長期展望のうえに立った検討が必要であると考えるがどうか。

答　農地の宅地化が激しくなっているので、今後は公共用地など特殊なものを除いて、農振法に基づき整備計画をたて、農業振興に力を入れていきたい。

▽水道行政

荒川ダム建設負担額軽減を

問　水源確保が迫られている現在、荒川多目的ダム建設は必至であるが、甲府市としても多額の投資を必要とする。これに対する具体的対策はあるのか。

さらに、財政的な問題を考えると、これ以上水道料金を据え置くのは市民に不利益になるのではないか。

答　荒川ダムは本市将来の水源確保のために必要である。県に負担金軽減のための働きかけを行っていく。

なお、水道料金は水道の円滑な運営のために値上げを検討しなければならない段階にきている。従って現在経営診断を行っており、八月にその結果が出るので、その上に立って議会とも協議したい。

▽交通安全対策

機構を充実して万全を図れ

問　交通事故は減少しているが県下都市部の事故は五五%を占めている。市長はこの際機構の充実を図るべきだと思うがどうか。

答　市民の生命を守る交通安全対策は重要であるので、独立した課を設置し、これに対処しなければならないと考えている。

就任あいさつ

甲府市議会議長　**内藤秀治**

〃　副議長　**中西　久**

内藤議長

中西副議長

六月定例市議会で、私どもは栄えある甲府市議会正副議長に就任いたしました。まことに感激であります。

本年は、国の施策が、昨年末の石油危機からインフレ的傾向に拍車がかけられ、これまでの経済政策と国民生活のあり方に大きな変動を迫られ、高度経済政策から福祉充実の政策に転換せざるを得なくなってまいりました。幸いに、本市は生活優先、人間尊重の福祉充実の施策を基調として、すでに市政が推進され着々とその成果を挙げつつありますことは、ひとえに市民各位のご理解とご協力の賜でご同慶の至りと存ずる次第であります。しかしながらこれからの福祉行政の充実は勿論、当面する甲府駅の駅ビル化、水資源確保、甲府刑務所の移転、甲府商業高校の移転整備など大きな課題と問題処理は多様であります。

私どもは、このときにあたりその重責をひしひしと感ずるとともに、市民各位の負託にこたえるため市民生活の向上をひたすら願い明るく清潔な市政を打ちたてる熱意に燃えて問題の解決をはかり、公正にして円満なる議会の運営をいたしてまいりたいと念願いたしております。

私どもは、もとより浅学非才でありますので この重責に一抹の不安を覚えるものでありますが、市民各位並びに先輩同僚のご指導とご叱正をいただきながら、伝統ある議会の権威と品位を高めるため献身努力をいたす所存でございますので、特段のご支援をお願いいたします。

例年にない長い梅雨期から酷暑を迎えましたが、市民各位には十分健康に留意され、ご活躍されんことを心からお祈り申しあげ、ごあいさつといたします。

▽荒川ダム計画変更△

超党派で県知事に陳情

市負担額の軽減を図る

荒川ダム建設については、議会においても長い間その実現が望まれていたところでありますが、昭和四十七年十二月に、県からその具体的計画（総事業費八十億円、甲府市負担額二十二億一千二百万円、負担率二七・六％）が示され、甲府市に共同事業者となる要請があり、市当局並びに議会で十分検討した結果、市が県と共同事業者として積極的にダム建設を推進することになっていました。

しかし、本年六月に県から地質によるダムサイドの位置の変更と建設資材の上昇により計画変更（総事業費二百億円、甲府市負担額五十五億二千万円、負担率二七・六％）の通知があり、甲府市としても、市民生活に不可欠の水源確保の重要問題であるため、議会の意見を求め、議会としては、六月六日に代表者会議を開くとともに十二日には県から荒川大門ダム調査事務所の志村所長を招き、議員全員に対する説明会を開催し、その検討を所管の水道委員会と水資源確保に関する事務調査特別委員会に一任し、議会としての意見集約をはかることになりました。

両委員会では合同で三回にわたり会議を開き、甲府市の水需要の状況、市及び水道財政、ダム以外の水源確保の可能性等慎重に検討をしましたが、甲府市が将来に亘って安定して市民に水を供給するためには、ダムが最良であると認めながらも、現状の本市水道の財政実態からみて五十億円以上を負担することは困難であり、水道料金への影響も考慮して市負担額の軽減をはかるべきであることが確認され、七月十八日に市議会開会中ではありましたが、市長をはじめ正副議長、各派代表者及び両委員会全員で市選出県議会議員各位の協力を得て田辺知事に負担額軽減の陳情を行ったのであります。

知事に陳情する市議団

その後県においても田辺知事をはじめとする関係者の努力により総事業費一八五億円、甲府市負担額四十六億二千五百万円、負担率二五％に引き下げられ、なお更に軽減される見込みがある旨、八月七日の両委員会に市長から報告があり、両委員会で最終的集約をはかった結果、議会としても荒川ダム変更計画の県の要請に応ずることを了承する意見の一致をみたのであります。

なお荒川ダムは、昭和五十年度着工、昭和五十四年度完成予定で甲府市の上水道用水として、新たに一日当り十万トンの取水ができることになります。またダムの規模は、次のとおりです。

一、ダムの諸元

位置	甲府市川窪町
型式	重力式コンクリートダム
堤高	八七・五米
堤頂長	三六〇米
堤体積	五七〇、〇〇〇立方米

二、貯水池

集水面積	七二・四平方粁
湛水面積	〇・三六一平方粁
総貯水量	一〇、八〇〇、〇〇〇立方米
有効貯水量	八、六〇〇、〇〇〇立方米

三、都市用水（上水道用水）

一日当り	一〇〇、〇〇〇立方米

□新常任委員決まる□

今定例会の最終日において、任期満了に伴う各常任委員会委員が議長の指名によって選任されました。新しい各委員会の構成は次のとおりです。

【総務委員会】

委員長	堀内光雄	（公明党）
副委員長	小沢政春	（清風会）
委員	内藤秀治	（市民ク）
〃	山口茂申	（市民ク）
〃	長瀬正左衛門	（市民ク）
〃	長田徳郎	（市民ク）
〃	小沢綱雄	（新政会）
〃	早川武男	（新政会）
〃	込山貴雄	（社会党）
〃	秋山慎次郎	（清心会）
〃	石丸あきじ	（共産党）

【民生委員会】

委員長	三浦大作	（社会党）
副委員長	山本清	（清風会）
委員	浅川朝治郎	（市民ク）
〃	小林淳光	（市民ク）
〃	山本光雄	（市民ク）
〃	内藤源一	（市民ク）
〃	中西久	（新政会）
〃	溝口一雄	（公明党）
〃	石川達朗	（清心会）

【建設経済委員会】

委員長	市川正雄	（市民ク）
副委員長	長田金八郎	（清風会）
委員	今村宏	（市民ク）
〃	山中繁芳	（市民ク）
〃	小河原正平	（市民ク）
〃	飯島哲	（新政会）
〃	渡辺儀市	（新政会）
〃	風間良興	（社会党）
〃	小林康作	（公明党）
〃	柏原保幸	（清心会）
〃	武川和好	（共産党）

【水道委員会】

委員長	土屋直	（新政会）
副委員長	伊藤常八	（市民ク）
委員	森沢茂	（市民ク）
〃	内藤幸男	（市民ク）
〃	橘田重雄	（市民ク）
〃	樋口精一	（社会党）
〃	堀込徳一	（公明党）
〃	清水清富	（清心会）
〃	三井五郎	（共産党）

＝請願・陳情＝

市道編入・道路整備が大半

六月定例会へ提出された請願・陳情について、それぞれの所管委員会で審査した結果、採択されたものは、いままで閉会中継続審査となっていたものを含めて請願十一件、陳情三件、また閉会中継続審査となったものは請願二件でありました。その内容は次のとおりであります。

請願

採択されたもの

【総務委員会】

○言語治療教室の完備（富士川小言語治療教室　親の会々長・三神護）

○甲府市小中学校の図書館司書の全額公費による雇用待遇改善、身分保障等（甲府市学校図書館協議会々長・内藤信一ほか）

【民生委員会】

○公害の救済指導（桜井町採石公害対策委員会々長・久保寺大作）

○乳幼児医療費無料化促進決議（新日本婦人の会甲府支部・浅川栄子）

【建設経済委員会】

○市道編入及び舗装整備（下町自治会長・飯田教平ほか）

○市道編入及び舗装整備（徳行自治会長・中村周次）

○生活関連道路の舗装（緑ケ丘自治会第九区々長・相原正夫ほか）

○市道の基礎工事（甲府銀座通り発展会建設実行委員長・中村屋廣石和ほか）

○市道の舗装整備（甲府市屋形一丁目6－24副会長・落合実ほか）

○市道編入工事（荒川町自治会長・小田切鶴吉ほか）

○市道編入整備（蓬沢自治会長・古屋末男ほか）

継続審査するもの

【民生委員会】

○診療報酬引き上げ（社団法人山梨勤労者医療協会理事長・小池善一）

【建設経済委員会】

○市道編入（善光寺町北原自治会長・小尾豊造）

陳情

採択されたもの

【総務委員会】

○司書の公費雇用（甲府市学校図書館協議会司書部会代表・藤井明子）

【民生委員会】

○公衆浴場業に対する助成（甲府浴場組合組合長・三井三千雄）

【建設経済委員会】

○市街化区域編入（市街化区域編入促進期成同盟会々長・守家孝二郎ほか）

議会選出

監査委員に堀込氏

教育委員に小池氏

議会選出の監査委員石川達朗氏の辞任に伴い、新たに堀込徳一氏を選任する議案が最終日の本会議に提出され、全員一致をもって同意することに決しました。

堀込徳一氏

＜堀込徳一氏の略歴＞

甲府市中小河原町一六一番地

市議会議員二期、給食センター特別委員長、公明党、五十七才

また、教育委員の和田青弥氏の辞任に伴い、小池幸蔵氏を任命する議案についても最終日の本会議において、全員一致をもって同意することに決しました。

小池幸蔵氏

＜小池幸蔵氏の略歴＞

甲府市朝日四丁目二番十三号

山梨師範本科卒、宮本、朝日小学校長歴任、県公立小中学校長会事務局長、六十三才

なお、固定資産評価審査委員会委員には、中沢孝雄氏の再任を決めました。

給食費父兄負担軽減

補正予算を可決

去る三月定例会において、今時諸物価高騰に対処するため生活物資等緊急対策の一環として給食費を公費で負担すべきであると、議会から強い要望が出されていたのに対し、市長から六月の時点で教師にも児童にも迷惑のかからない方法により四月に遡って実施し、そのための必要な予算措置を積極的にしていく旨の決意が表明されておりました。今定例会において学校給食費保護者負担軽減補助金として一千三十三万八千円の補正予算が提出され可決されました。

この結果児童一人当り月額五十円軽減されることになります。

この実施については本年度限りとし、今後は法の精神にかんがみ検討を重ねる中で対処していくとの方針も示されております。

市議会としては、実施に際して次の要望意見を付しました。

一、給食費に対する負担区分を明確にすること。

一、学校給食費の維持費については、その内容の明確化、公費での負担等を含めながら将来的展望のうえに立って検討を重ねること。

一、学校給食の運営の合理化と充実を図ること。

関東市議会議長会支部長会

甲府市で開催

関東市議会議長会支部長会は、去る七月二十八、二十九日の両日に亘り、会長の水戸市議長をはじめとして、副会長の多摩市、足利市、甲府市のほか関東ブロック一都七県の支部長市の各議長等の出席のもとに甲府市で開催されました。

会議は、会長によって進められ高速自動車道通過市に対する諸政策について、国民健康保険事業の改善充実について、表彰規程に定める町村議会当時の勤続通算年数の改正について、議員親善野球大会の開催について等、十議題を協議しました。

関東市議会議長会支部長会議

乳幼児医療費無料化に関する意見書

意見書

甲府市は、特に急性疾患や交通事故、伝染病などから子どものいのちを守り、市民福祉を向上させるため、一昨年から満一歳までの医療費を無料にしております。

しかし、昨年来の異常な諸物価の高騰により、市民生活は多大な影響を受け、乳幼児をかかえた市民は請願書の提出をもって、満三歳までの医療費無料化を強く要望しております。

乳幼児医療は、老人医療とともに、自治体にとって大きな課題となってきておりますが、現在の乏しい市財政の中では、年令を引き下げて無料化の枠を広げこの市民要望に応えることは困難な状況にあります。

よって甲府市議会は、次代を担う子どものいのちと健康を守るとともに、市民生活向上のため、国において早期に乳幼児の医療費無料化を制度化されるよう、強く要望するものであります。

右、地方自治法第九十九条第二項の規定により意見書を提出します。

昭和四十九年七月二十日

甲府市議会

内閣総理

自治・厚生・大蔵

各大臣あて

広域行政事務 甲府・玉穂中 組合議員選挙

六月定例会では、甲府地区広域行政事務組合議会並びに甲府市玉穂村中学校組合議会の補欠議員の選挙が行われ、それぞれ次の議員が当選されました。

○甲府地区広域行政事務組合議員

山口茂申、長田徳郎

長瀬正左衛門、早川武男

堀内光雄、石丸あきじ

小沢政春

○甲府市玉穂村中学校組合議員

長田徳郎、長瀬正左衛門

早川武男、堀内光雄

石丸あきじ、小沢政春

決算審査特別委を設置

今定例会に水道、病院、農業共済の各事業会計決算三件が提出されました。議会はこれを審査するため、七月二十日の本会議において、委員十六名をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、閉会中継続審査することを決めました。特別委員は次のとおりです。

委員長	清水清富
副委員長	長田金八郎
委員	今村宏、浅川朝治郎
	橘田重雄、内藤源一
	市川正雄、山本光雄
	飯島哲、渡辺儀市
	風間良興、樋口精一
	堀込徳一、堀内光雄
	秋山慎次郎、武川和好

永年勤続議員表彰

第五十回全国市議会議長会定期総会並びに第四十回関東市議会議長会定期総会において、議員として十五年以上在職し、地方自治振興のため尽力された功績により、本市議員のうち次の五氏が栄ある表彰を受けられ、六月定例会の本会議場で山口議長からその表彰状の伝達が行われました。

小沢　綱雄	（新政会）
込山　貴雄	（社会党）
内藤　秀治	（市民クラブ）
早川　武男	（新政会）
三井　五郎	（共産党）

編集後記

◇今六月定例会は、七月に繰下げて開かれ、月の半ば過ぎに終了したため、市議会だよりも一カ月おくれましたが、ここに第二十二号をお届けします。

◇今回は、刑務所移転問題、水資源問題、給食費等市民のみなさんに関係する問題を中心に、正副議長並びに各常任委員会の新しい構成などを掲載いたしました。

◇限られた紙面の中で、議会活動を十分ご理解いただけるよう努力を重ねておりますが、いつもながら一般質問等その全容でなく、要点のみになってしまいました。なかなか十分な編集ができませんが、皆さんの声によりましてこれをカバーし、充実をはかっていきたいと思いますので、市議会だよりに対するご意見、ご感想をお寄せください。

議会を傍聴しましょう